

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

〈下〉

54年に宮城派 箏曲の真門に

五十四年に宮城派箏曲の真門となり、NHK邦楽オーデションに合格、第十一回釧

毎年「ソリストの夕べ」には出ず苦勞はありますが、毎日出演するなど、公演活動も活発だ。
幅広く、数多くの曲を舞台上に

出す苦勞はありますが、毎日の努力の積み重ねが大事です。から毎日の練習は欠かしたことはありません」と芸術家としての強い意志を語る。いまは十五、六人の門下生を育て

25年間、箏曲 一すじ

七歳の時、友人の家でふと聞いた琴の音色に魅せられ、箏、三絃を三谷キワ教授に師

新分野へたゆまぬ努力

リサイタル活動も活発に

を歩んで来た。四十八年に宮城宗家に師事し、胡弓を塚越清子氏に学んだ。四十九年、五十年に宮城会コンクールに入賞し、五十一年東京芸術大学音楽部邦楽

科別科修了した。演奏活動と路新人演奏会特別賞、五十六年には釧路音楽協会第五回高
鈴木さんは古典曲が好きと
いう。ことに胡弓の演奏にも
優れ、昨年、NHK札幌放送
局主催の「初夏三曲名流選」
では高名なプロの演奏家たち
と胡弓で共演した。釧路では
数少ない胡弓演奏家として高
い評価を受けている。
「箏曲の音色が私の心をとら
えて離しません。音をつくり
ながらの演奏活動だが「現代
音楽に近い音色を持つこの楽
器で、いろいろと幅広く数多
くの曲を舞台にのせたい」と、
来年は自分の社中を持って
から十年目に当たり、発表会
を開く予定だ。「精進あるのみ
です」と決意を固めていた。

一世紀を結成し、徳島、岡山など三回出演し、東京ではコンサートを二回開いている。五十二年帰釧し釧路音楽集団「のると・モルト」に入会し、八回の定期演奏会に出演、宮城社、箏「文月会」を創立、三回の社中演奏会を開催している。

箏曲

鈴木 順子さん (三三)

(生田流宮城派箏曲教授)

アパシ君

木崎征夫

